

# 遺跡まつり新聞

特別号

発行 令和2年7月20日  
酒生まつり推進協議会

## 遺跡まつりのこれまでとこれから



### 遺跡祭り発足の頃「温故知新」



荒木町  
林 主計

酒生地区の皆様の温かいご支援とご協力によりまして「酒生遺跡祭り」が今日まで継続されましたことに衷心より感謝申し上げます。

平成九年福井市が各地区の活性化を勧める「うらがまちづくり」事業を提起してきました。そこで各方面からの意見を重ねて検討し、地区民に愛される行事として「まつり」をとおして活性化を進めることになりました。

「祭の名前」をどう命名するか。酒生地区には三百基を超える古墳や遺跡・史跡が存在していることから「遺跡祭り」としたところ、「酒生地区の祭りではなく篠尾の祭りになる」との反対意見がありました。また祭りの費用について各地区負担にとの意見もありましたが、この祭りの趣旨を理解してもらいたい

と「祭りの趣意書と募金袋」を配らせてもらいました。

「遺跡祭り」を推進拡大する試みとして各地区に存在する遺跡・史跡に標柱を設置し、県外の遺跡に関係のある地区として奈良県



明日香村を選び交流会を持ちました。遺跡祭りに明日香村劇団「時空」を招待し酒生小学校で公演を行いました。これを機会に更に遺跡の意義と保存意識を広めるため数回明日香村を訪問いたしました。

また祭りに関心を高めようと酒生各地区の歴史、伝説、遺跡、史跡等を題材にした寸劇を公民館祭りに上演しました。

思えば尽きませんが「温故知新」酒生地区には価値の高い文化遺産や伝説、民話が多い山あり、過去の歴史が今の自分を育んでくれたことを再確認し、この祭りを通して未来に向かって明らな豊かな地区に発展するように、皆様のご理解とご協力でこの祭りが絶えることなく続くこと念じております。



遺跡まつりを振り返って



稲津町 吉村 信吾

今年の遺跡まつりは中止となり残念ですが、「遺跡まつり新聞」は発行されるとのことで、平成17年から19年当時の酒生まつり推進協議会の主な取り組みを振り返って見たいと思います。振り返りにあたり、私としては絶対に忘れられない出来事があります。平成16年7月18日「福井豪雨」により、前波・宿布・篠尾・成願寺の各地域が甚大な洪水被害に見舞われました。当然ながら1週間後に開催予定の遺跡まつりも中止となりました。

只この年から酒生まつり推進協議会は、福井市が推進する「うらがまちづくり事業」に参画し、酒生地区としては、奈良県明日香村との交流が始まった年でもありました。

同年の10月10日(日)には、福井市主催「全国交流大会文化事業」として、明日香村伝承芸能「古代劇『時空』」を酒生小学校講堂にて公演をしました。地元酒生地区からも、荒木町女性部による「銭太鼓」、篠尾町



から竜神太鼓「篠舞会」の皆さんにより、公演を最大限に盛り上げて頂き、区民の皆さん方には大いに喜んで頂きました。

17年7月23日(土)の遺跡まつりは「福井豪雨復興記念」として、明日香村から「いにしへの灯火」を運んで頂き、復興を祝って頂きました。

まつり推進協議会は、明日香村見学旅行を企画し、酒生地区民一同に参加を募集いたしましたところ、40名のご参加を頂き、1泊2日の楽しいバス旅行となりました。夜の懇親会では、明日香村村長や助役を始め、保存会の皆さんより盛大な歓迎ともてなしを受けました。見学旅行は他に18年と19年の計3回行い、多くの方に喜んで頂きました。

他にも、まつり同時進行事業として、成願寺の波着寺参道整備や篠尾廃寺礎石の整備の他、同礎石を考査し、「いにしえロマンの里 酒生」のCG(コンピュータグラフィックス)を作成しました。

こうして思い起こせば充実した3年間を務めさせて頂いたと感謝して居ります。最後に恥ずかしながら歌を1首詠ませていただきます。

禍を福となる日をおいっつ

酒生の人 幸せを祈る



明日香村との交流



荒木新保町 荒川 馨

私は、第11回から第14回まで4年の間、酒生まつり推進協議会に関わりました。その中でも一番印象に残るのは、明日香村との交流です。奈良県の明日香村と言えば、645年の大化の改新の舞台となった場所であり、美女の壁画で知られる高松塚古墳やキトラ古墳が有名です。成願寺の桜川さんの口利きで交流が始まり、市民劇団の「時空」や伝統芸能八雲琴の酒生公演や、酒生地区民が貸切りバスで明日香村を訪問し、彼岸まつりへ参加するなど交流が続いていました。

担当した初年度の平成20年には、明日香村から4名の客人をお迎えしました。村議会の小西さん、観光協会の吉田さん、芸能保存会の岡崎さん、同会長の勝川さんにはるる酒生まで来ていただき、遺跡まつりに参加していただきました。開会のセレモニーでは、東村市長のほか、稲田衆議院議員、笠松県議会議員、地元の堀江市議会議員の御挨拶を頂き、華やかな開会式となりました。

古代衣装をまとった明日香村の人達に舞台上に



会館に会場を変え、第12回の遺跡まつりを開催しました。新しく制作した酒生キラリン節の披露や、地元の平岡愛子さんによるマリンバ演奏が記憶に残っているところです。

酒生の遺跡まつりには様々な出来事があり、多方面の多くの人達によって受け継がれてきました。今では地区を代表する祭りに成長しましたが、遺跡まつりに関係された皆様のご尽力に心から感謝申し上げます。



上がってもらい、小西さんの万葉の歌の紹介や記念品の交換を行いました。

村の人達にはまつりの後、一乗谷の民宿「陣屋」へ泊まっていたが、翌日は恐竜博物館を御案内し福井を堪能していただきました。明日香村へはこの年の6月に役員3名が明日香村を訪問し来福を依頼するなど交流があった年でした。

平成21年は酒生小学校の改修工事があり、小学校での開催が出来ませんでした。代わりに、成願寺の家の森第2駐車場と成願寺のふれあい

## 遺跡まつりよ永遠に



荒木新保町  
宮越 次二

酒生地区の遺跡まつりは、昨年度をもって第22回を数えるほどになりました。私がお世話をさせてもらったのは、平成24年の第15回から平成27年の18回までの4年間になります。

思い起こせば、篠尾の廃寺跡から出発していた灯火行列を、子供たちの体力を考えて成願寺の集落センター発にしたり、灯火行列の大灯籠を篠尾の方に製作してもらったりして改善を進めたところです。資金面では戸別に集めていた協力を、手間を省き収入を安定化するため集落ごとに金額を定め集めていただきました。

会場を縦横無尽に走り回る子供たちを見ると、大きくなり大人になっても酒生の遺跡まつりのことがいつまでも脳裏に焼き付いていると確信しています。生まれ育った酒生地区の記憶の中に、遺跡まつりの楽しかった思い出があるならば、本当に嬉しいものです。

当初は新鮮味溢れた遺跡まつりも、これだけの回数を重ねますと伝統化しつつもマンネリ化してきます。各団体の御協力による楽しいテント村や団体の出し物、ファイナルの花火など工夫を凝らした内容は



充実してきましたが、地区の皆様の関心が次第に薄れてきたことも事実で、今後の課題の一つと言えます。

遺跡まつりは酒生地区の総力戦です。集落から選出される協力委員の方々、酒生小学校の先生方、地区の各種団体、毎年貴重な協賛金をいただいている各企業、事務局や実行委員の皆さまの多大なるご尽力により、まつりは成り立っています。

20数年の長き間、代は変われどもこれらの方々を酒生を良くしたいという一つの目標に向かって何かを成し終えたということ自体が、私は大変貴重で素晴らしいことだと思っております。ご協力いただいた方々に心から感謝と敬意の念を抱かずにはおられません。

この先どのような世の中になるか予測できませんが、酒生地区を象徴する遺跡まつりが、代を超えて引き継がれ末永く続きますことを心から願う次第です。



## まつりが始まった頃

遺跡まつりが始まった平成9年頃は、全国的にふるさと創生の機運が高まっていた時期でした。市町村には1億円が配られ、それぞれが工夫を凝らしてふるさと創生のために動き始めていました。福井市においても各地区の地域づくりのために300万円の予算が盛られ、酒生地区ではその資金をもとに地域の歴史をつづつた「ふるさと酒生」を発刊しました。

さらには地域づくりのための催し物に市から補助金が下りることになり、酒生地区でも何かできないか模索をしていました。酒生には何があるのだろうか、他の地区にないものは？と考えた時に、天神山には縄文から古墳時代にかけての遺跡が眠っている、篠尾の里や周囲の山々にはいくつもの遺跡が残されていることに気が付きました。

## 一から作った遺跡まつり

篠尾町の篠尾廃寺跡に残る五重の塔の礎石を、「歴史の酒生」の象徴として祭りを開催することになりました。礎石後で原始的な方法で点けられた火を、子どもたちが中心となって灯火行列で会場まで運びました。白を中心にした古代衣装を身にまとった姿は幻想的なもので、この灯火行列は第22回に至るすべての回で行われています。会場へ届けられた酒生の火は組み上げられた丸太に点火され、夜空を照らし出しました。参加した人々には、古代の人が食べたであろう古代鍋が振る舞われました。

この時期には、何か新しいものを作り上げようとする機運があり、多くの人が新鮮な気持ちで遺跡まつりに参加していました。また、酒生には、遺跡、という素晴らしいものがあるということを知った人も多かったです。遺跡まつりは地区民の皆さんの大きな期待を背負って行われていました。

## 遺跡まつりが与えてくれたもの

遺跡まつりが酒生地区に与えてきた影響はどんなものがあるのでしょうか。20回を超えるまつりを開催することで、遺跡まつりの名が市民に浸透してきました。酒生と言えば遺跡と連想する人も増えてきました。市の歴史博物館や文化財保護センターを訪れてみれば、弥生時代の荒木遺跡、縄文遺跡や古墳時代の天神山遺跡、数々の遺跡が眠る成願寺山など、酒生の遺跡に関する資料は多数展示されています。その質と量は群を抜いており、他地区を圧倒するものです。遺跡まつりを機会にして、これらの施設を訪れる人も増えたことでしょうか。

また、成願寺の桜川さんのご尽力による奈良県高市郡明日香村との交流も見逃せません。この交流も酒生の古い歴史があつてこそ出来たものです。相互の訪問のほか、明日香村に伝わる八雲琴や劇団「時空」の酒生公演も実現しました。バスを使って酒生地区民の明日香村訪問ツアーも実施されました。

当初は11月開催であった遺跡まつりは、天候や気温などを考慮して7月開催になりました。夏の時期ではテント村や花火、盆踊りなど夏祭り要素が組み入れられ、年に一度の酒生地区の憩いの祭りとして定着してきました。大人たちによって設営されたテントを廻り、ゲームや駄菓子を買って求める子ども達には、本当にいい思い出になったことでしょうか。

地区の人達も、歴史的な史跡が多く残されている酒生を知れば知るほど、それを誇りに思うことになったことでしょうか。時を経るごとに酒生という地区への関心や興味が増していると感じています。

## これからの遺跡まつりは

遺跡まつりが多くの人に支えられ、20数年続けられてきたこと自体大変素晴らしいことです。酒生地区民の誇りとして心の奥に残るものです。それではこれから

先の遺跡まつりをどうすればいいのでしょうか。牽引力となる役員体制は世代を超えて未永く維持できるように、次世代へ受け継がれるようにすることが望まれます。これからの時代を背負う若い世代の新しい発想や企画に期待したいものです。

「酒生」の名の由来となった左近長者は、飛鳥の時代に暴れ川であった生江川（現在の足羽川）を制御し、用水を整備して福井市東部に富をもたらし、さらには奈良東大寺の大仏創建と深い関わりを持った生江東人一族の事とされています。篠尾廃寺もこの生江氏によって建立されたとされていますが、今に生きる私達は、「酒生」の名に恥じないよう遺跡まつりを盛り上げ、先祖を敬うとともに酒生の発展に寄与したいと思うところです。新型コロナウイルスによる活動制限を何とか解決し、令和3年度には中止された今年の分まで含めて、賑やかに開催できることを心から願いたいと思います。

## 編集後記

毎年恒例となっております酒生遺跡まつりですが、今年度は中国発の新型コロナウイルス対策により中止とさせて頂きました。会議や準備というものはどうしても人と人が集まります。ウイルス感染を引き起こす三密を防ぎきれないと考えたためです。開催できなかったことに対して、地区民の皆様にお詫び申し上げます。

平成9年に初めて開催された酒生遺跡まつりは、「酒生まつり推進協議会」が中心となって毎年回を重ね、22回を数えるまでになりました。今年も祭りそのものは開催できませんが、複数年度お世話いただいた歴代の会長に当時のことを振り返り原稿を寄せていただきました。遺跡まつりのことや、これからの酒生地区について考える機会になればと思っています。